

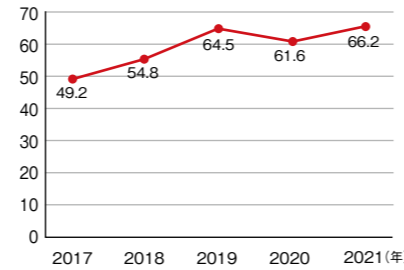


学生数/約1100人  
学部/国際社会  
●THE世界大学ランキング日本版2021/総合151-200位、私立大学総合=67位、北関東・甲信越エリア総合=11位

THE世界大学ランキング日本版2021の結果

| 分野     | スコア       | 順位       | 参考データ                |
|--------|-----------|----------|----------------------|
| 総合     | 34.3-40.2 | 151-200位 | 外国人学生比率/5.4%         |
| 教育リソース | -         | -        | 日本人学生の留学比率/11.5%     |
| 教育充実度  | 66.2      | =76位     | 外国語で行われている講座の比率/5.3% |
| 教育成果   | -         | -        | 学生の男女比/64:36         |
| 国際性    | 76.6      | 31位      |                      |

教育充実度の推移



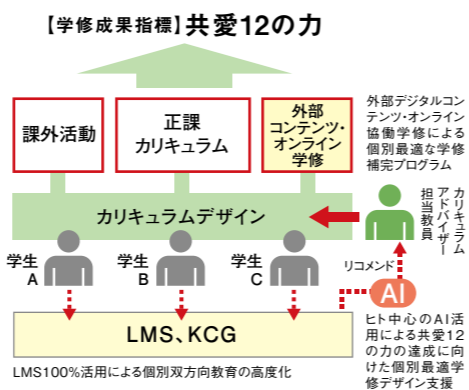
教育力とその広報

|       |   |
|-------|---|
| 教育の特色 | <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 国際感覚を持ち、グローバル化する群馬をけん引するグローバル人材を育成</li> <li>▶ eポートフォリオ「KYOAI Career Gate」による学修成果の可視化</li> <li>▶ 地元企業、自治体、学校等との課題解決型学習を中心とする地学一体の学び</li> </ul>  |
| 成果    | <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 独自指標「共愛12の力」の学年別平均スコアが1年次→4年次で大きく伸長</li> <li>▶ 汎用的能力を測定する各種外部アセスメントで、上位学年ほど高スコアの傾向</li> <li>▶ 1科目あたりの授業外学修時間が0.88(2014年度前期)→1.51(2019年度後期)時間に</li> </ul>   |
| 広報    | <p>以下の活動は広報が目的ではないが、結果として教育内容の周知につながっている</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 県内高校の探究学習等のサポート。学生が教えることにより、生徒にとってのロールモデルになる。プログラムの内容は、大学と高校が協働で作成</li> <li>▶ 高校の求めに応じて、アクティブ・ラーニング、カリキュラム・マネジメントなど教育改革のノウハウを共有する研修を開催</li> <li>▶ 地域と連携した教育活動が、地元メディアを通じて日々ニュースとして扱われる</li> </ul> |

注目! AIと外部コンテンツを活用し、地方小規模大学DXモデルの構築へ

文部科学省が公募した「Plus-DX」\*に選定された「KYOAI Career Gate × AIによる個別最適学修の実現」計画。同大学では2010年より教育のデジタル化を進めユビキタスキャンパスの構築、LMSやeポートフォリオを活用した学びを実践してきた。本計画では、個々の学生の蓄積データを分析したAIによるリコメンドを基に、学生自身がアドバイザーと相談しながら、個別最適な学修をデザインするしくみの構築に取り組む。この実現に向けては、個々の学生に合った学修補完プログラムの用意も課題だが、学内リソースがない新しい分野については、外部のeラーニング講座を利用する。「地方小規模大が、アップデートが激しい領域の学びを自前で用意するのは困難だ。外部コンテンツの活用を通じて地方小規模大のDX化モデルとしたい」(大森学長)。

個別最適学修を提供するDXモデル



\*デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン

CASE STUDY

学生中心の教育と連携で信頼獲得

共愛学園前橋国際大学

地域の未来に貢献する人材の育成を実直に継続し、地元の信頼を得てきた同大学。その姿勢・教育内容が県内に浸透した今、次の一手は。



学長 大森昭生

おもりあきお ●東北学院大学大学院文学研究科博士前期課程修了。1996年共愛学園に着任。2007年から教授。2016年に現職。中央教育審議会大学分科会臨時委員、県青少年健全育成審議会会長、県都まえばし創生本部有識者会議議長ほか、国、県、市の公的委員を多数務める。

「入る理由」を提供し続ける教育改革

開学2年目にして定員を割り、学生満足度はたった3割。この事実を突きつけられて以降、本学は一貫して「グローバル人材の育成」を胸に教育改革を行ってきた。20年超の継続の結果、このビジョンは学内外に広く浸透しています。入試の面接で「渋川市の職員になって地域の課題を解決したい」と明確な目標を口にする受験生然り、大学のグローバル教育を問う調査に「うちはグローバルではなくグローバルだから答えづらい」ともらす学生然り。イタリヤ社会論、イスラム文化学といった一見、群馬と縁遠い専門分野の教員が、ビジョンののっとなって地元の企業や自治体と連携した実習をゼミで行い、それらの活動が地域メディアで頻繁に報道されていま

マーケット縮小への対応と地域へのこだわり

正直、特別な広報活動をしていくわけではありません。それでもTHE世界大学ランキング日本版の高校教員調査で学生を伸ばす大

す。県内の方々に「地域の課題解決は前橋国際に」と想起してもらえる機会は、確実に増えました。学生が企画した地域活動を支援する「学生プロジェクト」、学生が自身の力を社会に発信するeポートフォリオとショーケースの開発など、これまでの教育改革の主軸は学生です。学生の幸せな生涯を担保する教育を追求した結果、出願者数、入試難度は上昇傾向が続いています。2021年度は入学定員を増やし、過去最多の入学者を迎えました。学生のために行う教育改革は、結果として経営に大きなメリットをもたらすことを証明しました。

コロナ禍による教育のデジタル化の進展は、「その大学はなぜその土地にあるのか」という問いを全大学に突きつけました。今後も、本学でしかない学び、言い換えれば「この大学に入る理由」を高校生に提供し続ける必要があります。と心を新たにしています。

学として多く名前を挙げてもらえたのは、積極的な高大連携の結果かと思えます。というのも高校の半歩先を進む大学の教育改革は、高校の教育改革にも役立つからです。ここでも、中心は学生。本学の学修成果そのものである学生が高校の探究活動を支援することに、結果的に本学の教育が高校に理解されるようになりました。

これらは学生募集が目的の活動ではないので、志願者がいない高校でも行います。群馬県の教育界全体から信頼を得れば、いずれしかるべき生徒と出会ったときに本学を勧めてくれるかもしれません。募集の好調はそうした活動を積み重ねた成果だと捉えています。

群馬県に集中した現在の募集活動には課題もあります。県内の18歳人口が減る中で地元志向が高まれば他県からの国公立志願者が減少し、県内受験生が国公立に流れやすくなります。「地域」が指すエリアを北関東、信越まで広げるべきか、議論を始めたところです。地域課題は場所によって異なります。募集エリアを広げるならば、各地域の企業や自治体と連携し、エリアに応じた授業やキャリアパスを用意すべきかもしれません。広報活動の前提に教育があるという姿勢にはこだわり続けます。

取材・文/児山雄介 撮影/亀井宏昭